

船舶事故調査報告書

平成27年4月30日
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決
 委員 庄司邦昭（部会長）
 委員 小須田 敏
 委員 根本美奈

事故種類	乗組員死亡
発生日時	不明（平成26年4月26日 04時30分ごろ～05時30分ごろの間）
発生場所	不明（長崎県五島市 ^{おう} 黄島南方8km付近）
事故調査の経過	<p>平成26年4月30日、本事故の調査を担当する主管調査官（長崎事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。</p> <p>原因関係者としての船長からの意見聴取は、本人が本事故で死亡したため、行わなかった。</p>
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	漁船 あげぼの丸、7.9トン NS2-13908（漁船登録番号）、個人所有 14.09m(Lr)×2.71m×0.98m、FRP ディーゼル機関、401kW（動力漁船登録票による）、平成3年5月14日
乗組員等に関する情報	船長 男性 66歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 昭和50年12月19日 免許証交付日 平成22年9月10日 （平成28年3月6日まで有効） 甲板員 女性 62歳
死傷者等	死亡 1人（船長）
損傷	なし
事故の経過	<p>本船は、船長及び甲板員が乗り組み、長崎県五島市黄島南方約8km沖において、はえ縄の投縄を終えて漂泊を始めた。</p> <p>甲板員は、投縄を終えた、平成26年4月26日04時30分ごろ、船長がシーアンカーを投入しているところを見た後、船室で仮眠をとった。</p> <p>甲板員は、05時30分ごろ目覚めて船室から出た際、いつもなら開いている、船長が仮眠をとる操舵室床下に入るハッチが開いておらず、船長が仮眠をとっていないことを不審に思い、船内を探したものの、船長がいないことを知った。</p> <p>甲板員は、船長が海に転落したものと思い、周囲を見渡したが発見できず、友人に連絡を取って海上保安庁への通報を依頼した。</p>

	<p>船長は、海上保安庁及び僚船により、漂流場所付近の捜索が行われたが発見されず、行方不明となり、後日、死亡認定された。</p>
気象・海象	<p>気象：天気 曇り、風向 北、風速 約2～3m/s、視界 良好 海象：波高 約1～2m</p>
その他の事項	<p>甲板員は、本事故当時、風が出てくる予報であったので、船長が、シーアンカーを投入後、スパンカーを張ると思っていた。</p> <p>甲板員は、船長が、日頃、操舵室床下で仮眠をとる際、同床下に入りするハッチを開けているのを見ていた。</p> <p>甲板員は、事故後、スパンカーを揚げるためのロープ（直径約10mm）が途中から切れていることに気付いた。（写真1参照）</p> <div data-bbox="817 638 1177 1111" data-label="Image"> </div> <p style="text-align: right;">切れたロープ</p> <p style="text-align: center;">写真1 スパンカーを揚げるロープ</p> <p>甲板員は、船長が、スパンカーを張る作業をする際、日頃から、船尾ブルワーク上に立って行うのを見ていた。（写真2参照）</p> <div data-bbox="571 1267 1348 1592" data-label="Image"> </div> <p style="text-align: center;">写真2 船尾ブルワーク及びスパンカー</p> <p>船長の服装は、下がジャージで上着にジャンパーを着ており、長靴を履いていた。また、救命胴衣は日頃から着用していなかった。</p> <p>船長の健康状態は、良好であった。</p>
分析	<p>乗組員等の関与 不明</p> <p>船体・機関等の関与 不明</p> <p>気象・海象等の関与 不明</p> <p>判明した事項の解析</p> <p>船長は、行方不明になったが、後日、死亡認定された。</p> <p>本船は、黄島南方8km付近において漂流中、甲板員が、04時30</p>

	<p>分ごろ投縄を終えてシーアンカーを投入している船長を認めた後、05時30分ごろ船長の姿が見えないことに気付いたことから、この間において、船長が落水したものと考えられる。</p> <p>甲板員が船内を探した際、スパンカーを揚げるロープが切れていたことから、船長がスパンカーを張る作業中に落水した可能性があると考えられるが、落水した状況を明らかにすることはできなかった。</p> <p>船長は、救命胴衣を着用していれば、救助された可能性があると考えられる。</p>
原因	<p>本事故は、本船が、夜間、黄島南方沖において漂流中、船長が落水したことにより発生したものと考えられる。</p>
参考	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 暴露甲板で作業を行う場合は、救命胴衣の着用に努めること。